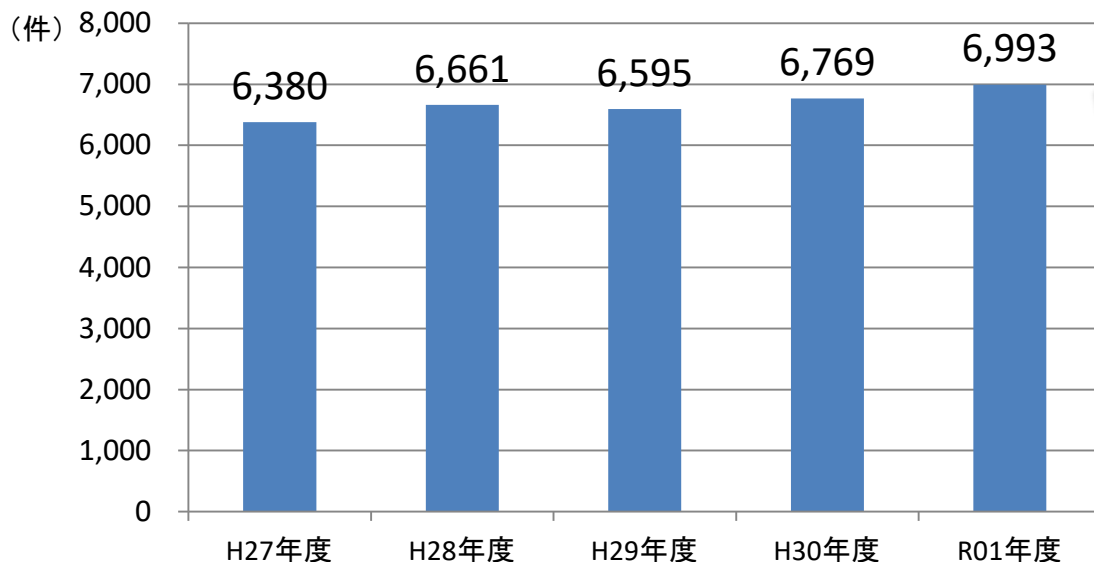


手術室内での手術件数

■ 解説: process指標

国立大学附属病院は主に急性期医療を担当する医療施設です。外科手術の提供とその技術を若手医師に継承してゆくことは、診療と教育という国立大学附属病院の社会的責任を果たすこととなります。外科医、麻酔科医、看護師、手術室等限られた職員と場所を効率的に運用し、そして多くの手術に対応することを表した指標です。

■ 当院の実績



■ 定義

手術室で行われた医科診療報酬点数表区分番号K920、K923、K924(輸血関連)以外の手術(医科診療報酬点数表2章第10部手術に記載された項目)の件数です。ただし複数術野の手術等、1手術で複数手術を行った場合は、合わせて1件とします。

■ 算式

レセプト算定件数

■ 令和元年度国立大学病院報告書: 100床換算; 中央値1025.99、当院1229.00

《自己点検評価》

当院では、再開発により手術室の改修、増築を行い、平成23年3月から14室の手術室を有し、手術件数も順調に増加、国立大学病院での令和元年度実績(100床換算)は、ベスト5に入っています。

手術室の安全運営を第一に、麻酔科医師や看護師、臨床工学技士を増員し、体制整備を行い、手術枠を増枠し対応してきました。また、役割分担推進により、医療材料等の術前準備作業や手術後の後片付け・清掃等を外部委託契約し、効率的な運営を行っています。医療安全面でもタイムアウトの導入等改善を図っております。

今後も、効率的で効果的な運営を目指し、手術の需要に、迅速に対応できるよう努めます。

